



## DJI Terraリリースノート

---

バージョン番号: 5.2.0

### 新着情報

- Zenmuse L3で撮影されたHEIF(.heic)写真の、可視光構築プロジェクトへのインポートに対応しました。
- GeoTIFF (COG) 形式での2Dマップ生成に対応し、下流ソフトウェアでのマップ閲覧速度が向上しました。
- DJI D-RTK3で収集したデータに対する自動マーク識別機能を追加しました。これにより、オフィスでの処理効率が向上し、手動でのマーキングに要する時間が短縮されます。
- 設定で機器のパフォーマンスモードを調整できるようになりました。高効率モードまたはカスタムモードを有効にすると、複数のコンピューティングコアを活用して構築の効率と速度を最適化できます。
- エラーレポート機能を強化し、追加の添付ファイルをアップロードできるようにしました。

### 更新された内容

- 構築処理中に写真を融合して、LiDAR飛行ルートの軌跡を精緻化することで、LiDAR点群構築プロジェクトの構築結果を改善しました。
- LiDAR点群構築タスクにおけるベースステーション中心点の解析ルールを改善し、ベースステーション中心点の精度を向上しました。
- オブリーク (斜め) 飛行ルートデータから構築した2Dデジタルオルソフォトマップ (DOM) の品質を向上し、より鮮明で自然な画像表現を実現しました。
- 品質レポート内の構築タスクにおける座標系および出力パラメーターの表示を改善しました。
- 可視光構築タスクにおけるガウシアン・スプラッチングを改善し、極高画質設定での構築結果を向上させるとともに、高画質設定での構築効率を向上しました。
- Zenmuse L3で収集したデータを使用した2Dマップ構築の効率を向上しました。
- 可視光点群プロジェクトでは、ノイズ低減と精度向上がデフォルトで有効になりました。

### 修正された内容

- 出力でフィートを計測単位として使用した場合に、等高線間隔が不正確になる問題を修正しました。

#### 注意事項

- DJI Terra V5.2.0では、HEIF(.heic)フォーマットのメディアのインポートは、現在Zenmuse L3で収集されたデータのみに対応しています。
- Windowsシステムのファイルパス長が260文字に制限されているため、同一デバイス上で複数のコンピューティングコアを実行する際は、パスが長すぎることによるファイルの読み書き失敗や再構築失敗を避けるため、プロジェクトディレクトリをパスの短いフォルダに設定することを推奨します。この問題は今後のバージョンで修正される予定です。

更新日期：2026-03-26

---

#### バージョン番号：5.1.1

- 修正された内容
  - DJI Zenmuse L3を使用した大規模エリアのLiDAR 点群構築タスクにおいて、点群の階層化が偶発的に発生する問題を修正しました。
  - 2D および 3D 出力の切り替え時に、点群の読み込み失敗が偶発的に発生する問題を修正しました。
  - プロジェクトパスにスペースが含まれている場合に、クラスター構築の失敗が偶発的に発生する問題を修正しました。
- 更新された内容
  - ガウススプラッチング構築タスクの構築エラーに関するガイダンスを最適化しました。
  - LiDAR 点群構築中のPPK 計算失敗時の通知を最適化しました。
- 注意事項
  - DJI Terra v5.0.2 以前で作成されたプロジェクトに関して、v5.1.0 にアップグレード後、保存場所が直近の構築タスクの保存場所にデフォルト設定されます。プロジェクトにクラスター構築出力とスタンドアロン構築出力の両方が含まれている場合は、2 回目の構築を行う前に、プロジェクト情報パネルでプロジェクトの保存場所を変更してください。これを行わない場合、一時ファイルが削除されず、構築時間が長くなるなどの問題が発生する可能性があります。
  - DJI Terra v5.1.0 以降で作成されたクラスター構築タスクは、以前のバージョンでは継続できません（つまり、ダウングレードをした上で構築を再実行することはできません）。
  - DJI Terra v5.1.0 にアップグレードした後は、元のクラスターワーカーデバイスは利用できなくなります。クラスター版をご利用のお客様で、新しいクラスター機能をご利用になる必要がある場合は、ア

アップグレードについてアフターサポートの技術担当者までお問い合わせください。

更新日期：2025-12-04

---

バージョン番号：5.1.0

#### 新着情報

- Zenmuse L3 で収集したデータによる可視光構築タスクのサポートを追加しました。LiDAR 点群タスクの構築が無料で利用できるようになりました。
- LiDAR 点群タスクにクラスター構築のサポートを追加しました。
- LiDAR 点群構築前のPOS データ処理のサポートを追加しました。生データPOS 処理、ローカルPPK 処理、およびクラウドPPK 処理に対応しました（中国本土限定）。
- LiDAR 点群構築タスクで低品質な飛行ルートデータを除去するための飛行軌跡クリッピングのサポートを追加しました。飛行ルートの精度がクオリティレポートに表示されるようになりました。
- LiDAR 点群タスクでDJI Zenmuse L3 によって収集されたデータからリアルなガウシアンスプラッティング シーンを構築するためのサポートが追加され、可視光方式に比べて大幅に効率性を向上しています。
- クラスター構築機能が大幅にアップグレードされ、より強力なワーカーデバイス管理機能が追加されました。
- 標準ライセンスおよびフラッグシップライセンスのユーザーが、クラスター構築を無料でご利用いただけるようになりました。

#### 更新された内容

- 構築効率を最適化し、構築速度を向上しました。[設定]でコンピューターの電源モードを調整できるようになりました。13 世代または 14 世代 Intel CPU および Windows 11 を搭載したシステムで、アルティメットパフォーマンスモードに切り替えると、構築効率が大幅に向上します。
- 可視光点群構築機能の精度を大幅に最適化しました。点群の厚み、精度、カラー処理が大きく向上しました。
- 可視光 DSM 結果を最適化しました。点群の厚みを削減し、精度を向上させ、ノイズを最小限に抑え、壁や地面などの低テクスチャー領域でのカラー処理が改善しました。
- プロジェクトのストレージパス管理を最適化しました。新しいプロジェクト作成時に保存場所を選択できるようになり、プロジェクト作成後にも保存場所を変更できるようになりました。
- ガウシアンスプラッティングモデルの閲覧体験を最適化しました。TerraGS ファイルを生成後、VRAM が 4GB のコンピューターであれば、大規模なガウシアンスプラッティング出力（1 億ポイント）をスムーズに表示できます。
- 2D 可視光構築から生成されたDSM の精度を向上させ、建物の縁やその他の領域の視覚効果を強化し

ました。

#### 注意事項

- LiDAR 飛行軌跡をトリミングした後でも、LiDAR センサーで撮影された写真は削除されません。これらの写真は点群のカラー処理を補助するために使用され、点群構築の精度には影響しません。
- DJI Terra v5.0.2 以前で作成された古いプロジェクトを v5.1.0 へアップグレードする場合、DJI Terra は前回の構築タスクの保存場所をデフォルトで使用します。古いプロジェクトにクラスター構築とスタンドアロン構築の両方の結果が含まれている場合は、2 回目の構築を行う前に、プロジェクト情報パネルでプロジェクトの保存場所を変更してください。この操作を行わない場合、一時ファイルが削除されず、構築時間が長くなるなどの問題が発生する可能性があります。
- DJI Terra V5.1.0 で作成したタスクは、以前のバージョンでは継続できません（ダウングレード後の構築再開はサポートされていません）。
- 可視光構築タスクでは、地表点、DEM、等高線、TIN、ガウシアンスプラットニングの出力は、クラスター構築に対応していません。LiDAR 点群構築タスクでは、DEM、等高線、ガウシアンスプラットニングの出力は、クラスター構築に対応していません。
- クラスター構築を実行する際は、クラスター内のすべてのワーカーデバイスがタスクに必要なライセンス権限を持っていることを確認してください。必要な権限を持たないワーカーデバイスは構築に参加しません。例えば、標準版ライセンスのコンピューターでクラスター構築タスクを開始した場合、同じクラスター内の農業版n ライセンスのコンピューターではそのタスクは実行されません。
- DJI Terra v5.1.0 にアップグレードした後は、元のクラスターワーカーデバイスは利用できなくなります。クラスター版をご利用のお客様で、新しいクラスター機能をご利用になる必要がある場合は、アップグレードについてアフターセールス技術サポートまでお問い合わせください。
- DJI Terra v5.0.2 以前のバージョンで作成したプロジェクト構築を v5.1.0 以降で続行する場合、それまでの構築結果は消去されます。

更新日：2025-11-04

---

バージョン番号：5.0.1

更新の詳細

修正内容

オフライン版の無料イテレーション期間の異常により、DJI Terra V5.0.0バージョンにアップグレードできない問題を修正しました。

更新日：2025-07-18

---

バージョン番号：5.0.0

更新の詳細

## 新機能

- 可視光再構成プロジェクトでガウススプラッチングをサポートし、2D 出力と 3D 出力の両方を実現しています。出力は、3DTiles 形式（DJI Terra LOD 形式、Cesium と互換性あり）、PLY 汎用 3D 形式、および GeoTIFF 汎用 2D GIS 形式で利用可能です。
- ガウススプラッチングは現在、クラスタ再構築やアプリケーション内での注釈・測定をサポートしていません。ガウススプラッチング再構築の結果は、ローカルフォルダのパス「<ProjectName>/3dgs/results」にあります。
- バージョン 5.0 では、完全に再設計されたインターフェース（再構築パラメーターテンプレートを含みます）を導入し、よりスムーズでユーザーフレンドリーな体験を実現しています。
- 標準バージョンおよびフラグシップバージョンがご利用いただけるようになりました。フラグシップバージョンには、可視光ガウススプラッチング再構築のサポートが含まれています。
- NVIDIA の最新 RTX 50 シリーズ（Blackwell アーキテクチャ）グラフィックスカードをサポートしています。
- DJI Matrice 4T からのオルソフォトデータを使用した 2D マップ再構築のサポートが追加されました。
- FBX 形式で 3D メッシュモデルをエクスポートできるようになり、エンジニアリング、映画、ゲームでモデルをより簡単に使用できるようになりました。
- LAZ 形式での 3D 点群のエクスポートのサポートが追加されました。LAS よりも使用するストレージが少なくなっています。
- DJI Matrice 4D、DJI Matrice 4TD、DJI Matrice 4T および Matrice 4E ドローンによる詳細な検査プロジェクトのサポートが追加されました。
- 日本の JPGE02024 標高座標系のサポートが追加されました。

## 更新された内容

- 3D モデル表示の明瞭度を最適化しました。
- GCP ページへのアクセス速度を最適化しました。
- タスクページの左下から直接に出力座標系を設定できるようになりました（可視光空中三角測量を除きます）。
- LiDAR 点群からの 2D マップ再構築の速度が、ハードウェアとデータにより異なりますが、20%～50%速くなりました。
- 農業運用向けの機械学習の精度が向上し、果樹、建物、電柱、地面、水などの認識が改善されました。
- 永久 DJI Terra 5.0.0 ライセンスを保有するユーザーは、最新バージョンに無料でアップグレードできます。メンテナンス料は不要です。

## 注意事項

- オリジナルの Survey バージョン（中国本土）および Pro バージョン（中国本土以外）のユーザーは、無料でスタンダードバージョンにアップグレードできます。Electricity バージョンのユーザーは、無料でフラグシップバージョンにアップグレードできます。クラスターバージョンのユーザーは、新しいライセンスを必要とせずに、すべてのフラグシップ機能を利用できます。DJI Terra v5.0.0 をダウンロードするだけで、自動的にアップグレードが行われます。
- ガウスプラッキングには、Windows 10 以降（64 ビット）、少なくとも 32GB の RAM、およびコンピュータ能力 6.1 以上の NVIDIA グラフィックスカード（最低 4GB の VRAM）が必要です。最良の結果を得るには、8GB 以上の VRAM を持つカードを使用し、ドライバーを最新バージョンに更新してください。
- DJI Terra v5.0.0 は、詳細検査および農業運用の飛行タスクのみをサポートします。他の飛行ルート機能については、バージョン 4.5.0 を使用してください。
- ガウスプラッキング Cesium プラグインは、後続のバージョンでリリースされます。

更新日: 2025-07-17

---

バージョン番号: 4.5.0

更新の詳細

新機能

- 可視光再構築タスクにおいて、モデルサイズを調整するためのスケール制約設定のサポートを追加しました。
- 特定の国や地域で水平・垂直座標系を推奨する座標系推奨のサポートを追加しました。
- GSD に基づいて 2D マップの解像度を設定するサポートを追加しました。
- 可視光再構築タスクにおいて、Zenmuse L1（写真のみ）、Zenmuse L2（写真のみ）、Zenmuse P1、Mavic 3M、Mavic 3E、Matrice 3D、Matrice 4D、Matrice 4TD、Matrice 4T、Matrice 4E で収集されたデータの PPK 処理をサポートしました。データ収集時には最新のファームウェアバージョンを使用してください。

更新内容

- 可視光再構築タスクにおける弱いテクスチャ領域での点群出力の精度を最適化しました。
- 農業運用における再構築結果のアップロードサイズを最適化し、2D 出力データの場合、最大 10,000 畝の面積と、5 GB を超えない単一ファイルサイズをサポートしました。

修正内容

- モデル座標系を変更した後、点群の標高を表すカラーバンドが実際の高さと一致しない問題を修正しました。
- 過剰な数のマークが GCP 機能へのアクセスを妨げる問題を修正しました。
- バージョン 4.4.6 で、一部の可視光 2D モデル構築出力における異常なテクスチャマッピングの問題

を修正しました。

#### 注意事項

- NVIDIA の新しくリリースされた RTX 50 シリーズグラフィックスカード (Blackwell アーキテクチャ) は現在サポートされていません。GeForce RTX 50 シリーズグラフィックスカードを使用して再構築を行うと、特定のシーンを選択したり、特定の機能 (2D マップの可視光タスクでのフィールドや果樹園のシーン、3D メッシュモデルの可視光タスクでの水面のリファイン、LiDAR 点群タスクでの点群精度の最適化や点群のスージングなど) を有効にしたりすると、DJI Terra で失敗する可能性があります。
- POSをインポートする際、選択する回転順序はPhi、Omega、Kappa (POK) で、カメラ座標系のX軸が右を向き、Y軸が上を向き、Phi角が時計回りに回転するようにしてください。

更新日: 2025-04-24

---

バージョン番号: 4.4.6

#### 更新の詳細

##### 更新内容

- LiDAR 点群処理タスクの安定性を最適化。

##### 修正内容

- LiDAR 点群タスクで基地局の中心点を変更した後にカラーレンダリングが不正確になる問題を修正。
- LiDAR 点群タスクで点群の平滑化が有効になっているときにカラーレンダリングが不正確になることがある問題を修正。
- スマートオブリークが有効になっているときにDJI Matrice 4E で収集されたファイルの低解像度 2D モデル構築が失敗する問題を修正。

#### 注意事項

- DJI Terra v4.0.0 以降では、計算能力が 6.1 以上の NVIDIA グラフィックスカード (4GB) の使用を推奨します。
- DJI Terra v4.0.0 以降では、DJI Terra が 3 日間オフラインになると、オンラインライセンスは無効になります。

更新日: 2025-02-20

---

バージョン番号: 4.4.0

#### 更新の詳細

##### 新機能

- DJI Matrice 4シリーズの機体の可視光再構築に対応。
- DJI Matrice 4シリーズの機体で収集した写真のPPK処理のためのD-RTK3基地局データのインポートに対応。
- DJI Terraの年間サブスクリプションを、米国、イタリア、ドイツ、イギリス、フランス、デンマーク、ポーランド、スイス、スペイン、チェコ共和国、ポルトガル、ハンガリー、クロアチア、オランダなどで利用できるようになりました。
- LiDAR点群再構築タスクおよび生成されたDSM/DEM結果からの2Dマップの再構築に対応。
- 点群処理シナリオでのLiDAR点群再構築タスクからの3Dメッシュモデルの生成に対応。
- 可視光再構築タスクの点群密度の設定に対応。点群密度が高く設定されている場合、点群密度はバージョン4.2.0の約20倍です。

#### 更新内容

- スマートオブリークが有効な場合、DJI Matrice 4シリーズの機体で収集された写真からの2Dマップ再構築の効果を最適化。
- LiDAR点群再構築タスクにおける点群の平滑化効果を最適化。インポートされたデータにLiDARが収集した写真が含まれる場合、写真を使用して点群精度を大幅に向上させます。
- 農業用途のシナリオにおいて、結果をより明確に区別できるように、セマンティック認識結果の色を最適化。

#### 修正内容

- 3D再構築後にカメラのPOSを表示できないことがある問題を修正。

#### 注意事項

- DJI Terra v4.0.0以降では、演算能力6.1以上のNVIDIAグラフィックスカード（4 GB）の使用をお勧めします。
- DJI Terra v4.0.0以降では、DJI Terraが3日間オフラインになるとオンラインライセンスを使用できなくなります。

更新日：2025年1月08日

---

バージョン番号：4.3.0

#### 更新の詳細

##### 新機能

- Zenmuse L2が実行したタスクの飛行軌跡を表示する機能を追加。
- モデル編集用の3DメッシュモデルをDJI Modifyにインポートする機能を追加。メッシュモデル

は、DJI Terra v3.5.0以降のバージョンで生成する必要があります。

- [空中三角測量] > [出力形式] でXMLを選択して、可視光再構築ミッションが完了した後で再構築を再開できるようになりました。

#### 更新内容

- 再構築の成功率を向上させるために、再構築アルゴリズムを最適化。
- LiDAR点群ミッションの変電所再構築の効果を最適化。小さな物体をより正確に分離できるようになったため、再構築の出力がより完全になりました。
- 可視光点群の品質を最適化し、ノイズを低減し、点群密度をv4.2.0の1.5倍に向上。
- 点群の表示効果を最適化し、点群の密度を均一化。
- 輪郭線の点の数とファイルサイズを、v4.2.0の同じファイルの1/8に削減。
- Matrice 30、Matrice 30T、DJI Mavic 3T、DJI Mavic 3Eで実行する詳細検査タスクでの写真撮影（固定角度）アクションの精度を最適化。

#### 備考

- DJI Terra v4.0.0以降では、演算能力6.1以上のNVIDIAグラフィックスカード（4 GB）の使用をお勧めします。
- DJI Terra v4.0.0以降では、DJI Terraが3日間オフラインになるとオンラインライセンスを使用できなくなります。
- 飛行軌跡の表示は、Zenmuse L2の最新ファームウェアを使用して、非送電線フォロータスクおよび非手動タスクを実行する場合にのみサポートされます。

更新日：2024年10月24日

---

バージョン番号：

4.2.13

更新の詳細

修正内容

- 再構築中に進行状況バーが動かなくなることがある問題を修正。

更新日：2024年10月15日

---

バージョン番号:

#### 4.2.10更新の詳細

修正内容

- 再構築成功率を向上させるための最適化されたアルゴリズム。

備考

- DJI Terra v3.9.0以降で有料機能を使用するには、NVIDIAグラフィックスカードを搭載したコンピューターを使用する必要があります。
- DJI Terra v4.0.0以降では、演算能力6.1以上のNVIDIAグラフィックスカード（4 GB）の使用をお勧めします。
- DJI Terra v4.0.0以降では、DJI Terraが3日間オフラインになるとオンラインライセンスを使用できなくなります。

更新日：2024年9月26日

---

バージョン番号:

#### 4.2.5更新の詳細

修正内容

- 最適化されたログ情報。
- 新規ユーザーにアンケートを再度表示しないようにサポートを追加。

備考

- DJI Terra v3.9.0以降で有料機能を使用するには、NVIDIAグラフィックスカードを搭載したコンピューターを使用する必要があります。
- DJI Terra v4.0.0以降では、演算能力6.1以上のNVIDIAグラフィックスカード（4 GB）の使用をお勧めします。
- DJI Terra v4.0.0以降では、DJI Terraが3日間オフラインになるとオンラインライセンスを使用できなくなります。

更新日：2024年8月21日

---

バージョン番号:

#### 4.2.3更新の詳細

##### 修正内容

- ライセンスが見つからない場合に、ユーザーがLiDAR点群再構築タスクで点群密度を設定できない問題を修正。

##### 備考

- DJI Terra v3.9.0以降で有料機能を使用するには、NVIDIAグラフィックスカードを搭載したコンピューターを使用する必要があります。
- DJI Terra v4.0.0以降では、演算能力6.1以上のNVIDIAグラフィックスカード（4 GB）の使用をお勧めします。
- DJI Terra v4.0.0以降では、DJI Terraが3日間オフラインになるとオンラインライセンスを使用できなくなります。

更新日：2024年8月07日

---

#### バージョン番号：

#### 4.2.2更新の詳細

##### 修正内容

- NVIDIAグラフィックカードドライバーをバージョン560.70 – WHQLにアップグレードした後、LiDAR点群再構築タスクが失敗する問題を修正。

##### 備考

- DJI Terra v3.9.0以降で有料機能を使用するには、NVIDIAグラフィックスカードを搭載したコンピューターを使用する必要があります。
- DJI Terra v4.0.0以降では、演算能力6.1以上のNVIDIAグラフィックスカード（4 GB）の使用をお勧めします。
- DJI Terra v4.0.0以降では、DJI Terraが3日間オフラインになるとオンラインライセンスを使用できなくなります。

更新日：2024年7月30日

---

#### バージョン番号：

#### 4.2.0更新の詳細

## 新機能

- Zenmuse L2で収集した点群データと可視光写真の3Dメッシュモデルへの統合と再構築をサポート（変電所の再構築でのみ使用可能）。生成されたメッシュモデルはより完全で詳細になり、送電線のシナリオにおける再構築の要件を満たします。
- グラウンドポイント分類機能を使用して、可視光再構築ミッションからの点群出力を分類可能。DEM、点グリッド、TIN、および等高線を出力して生成できます。
- バグレポート機能を追加。この機能はテスト段階にあり、中国本土のDJI Terra Pro/Electricity /Clusterバージョンを使用している有料ユーザーが利用できます。この機能は、無料ライセンスまたはオフラインライセンスでは使用できません。
- 韓国と米国の特定の垂直座標系をサポート。

## 修正内容

- ユーザーが農業機能でウェイポイントを手動で調整後、ウェイポイント間の距離が1 m未満となり、飛行ルートを実行できない問題を修正しました。
- 再構築出力の座標系の単位にヤード・ポンド法が使用される場合、品質レポートで単位エラーが発生する問題を修正しました。
- LiDAR点群再構築ミッションのプロファイル機能でグリッド線を拡大縮小すると、縮尺が異常になる問題を修正しました。

## 更新内容

- LiDAR点群ミッションでの点群の平滑化効果を最適化しました。より詳細な点群が保存されます。
- 外部パラメーターの大きなエラーの修正をサポートするLiDARキャリブレーション効果を最適化しました。
- カラーレンダリング効果を最適化しました。3Dメッシュモデル機能を有効にすると、カラーレンダリングの精度が向上し、より鮮明になります。

## 備考

- DJI Terra v3.9.0以降で有料機能を使用するには、NVIDIAグラフィックスカードを搭載したコンピューターを使用する必要があります。
- DJI Terra v4.0.0以降では、演算能力6.1以上のNVIDIAグラフィックスカード（4 GB）の使用をお勧めします。
- DJI Terra v4.0.0以降では、DJI Terraが3日間オフラインになるとオンラインライセンスを使用できなくなります。

更新日：2024年7月24日

---

バージョン番号：

#### 4.1.0更新の詳細

更新情報

- 再構築成功率を向上させるための最適化されたアルゴリズム。

備考

- DJI Terra v3.8以降のバージョンでは、公式サイトからの無料トライアル ライセンスや Educationライセンスを使用して、LiDAR点群再構築で有料機能を実行する場合、インポートするファイルの最大容量は8 GB以下にしてください。
- DJI Terra v3.9以降のバージョンでは、ライセンスを取得するため、ユーザーはNVIDIAグラフィックカードを搭載したパソコンを使用する必要があります。
- DJI Terra v4.0.0以降のバージョンでは、6.1以上の計算能力のあるNVIDIAグラフィックカード（4GBメモリ）を使用することを推奨しています。
- DJI Terra v4.0.0以降のバージョンでは、DJI Terraが3日間オフラインのままの場合、オンラインライセンスを使用できなくなります。

更新日：2024-05-30

---

バージョン番号：

#### 4.0.10更新の詳細

修正情報

- DJI Terra v4.0.0の果樹園モードでフィールド計画を編集した後、飛行ルートをアップロードできない問題を修正。
- DJI Terra v4.0.8で、LiDAR点群ミッションのベースステーション中心点の変更が有効にならない問題を修正。

備考

- DJI Terra v3.8以降のバージョンでは、公式サイトからの無料トライアル ライセンスや Educationライセンスを使用して、LiDAR点群再構築で有料機能を実行する場合、インポートするファイルの最大容量は8 GB以下にしてください。

- DJI Terra v3.9以降のバージョンでは、ライセンスを取得するため、ユーザーはNVIDIAグラフィックカードを搭載したパソコンを使用する必要があります。
- DJI Terra v4.0.0以降のバージョンでは、6.1以上の計算能力のあるNVIDIAグラフィックカード（4GBメモリ）を使用することを推奨しています。
- DJI Terra v4.0.0以降のバージョンでは、DJI Terraが3日間オフラインのままの場合、オンラインライセンスを使用できなくなります。

更新日：2024-03-28

---

バージョン番号：

4.0.8更新の詳細

更新情報

- ユーザーによるライセンスの紐付け解除に対応。
- FAQ、チュートリアル、DJIサポートへのアクセスをヘルプセンターに追加。
- ドイツとメキシコ向けの特定の垂直座標系に対応。

修正情報

- Terra v4.0.0におけるLiDAR点群再構築の効率が低下した問題を修正。
- Terra v3.9.0からの空中三角測量の出力結果を使用して、Terra v4.0.0で3D再構築を実行できない問題を修正。

備考

- DJI Terra v3.8以降のバージョンでは、公式サイトからの無料トライアルライセンスやEducationライセンスを使用して、LiDAR点群再構築で有料機能を実行する場合、インポートするファイルの最大容量は8 GB以下にしてください。
- DJI Terra v3.9以降のバージョンでは、ライセンスを取得するため、ユーザーはNVIDIAグラフィックカードを搭載したパソコンを使用する必要があります。
- DJI Terra v4.0.0以降のバージョンでは、6.1以上の計算能力のあるNVIDIAグラフィックカード（4GBメモリ）を使用することを推奨しています。
- DJI Terra v4.0.0以降のバージョンでは、DJI Terraが3日間オフラインのままの場合、オンラインライセンスを使用できなくなります。

更新日：2024-03-14

---

バージョン番号:

#### 4.0.1 修正情報

- v4.0.0で、時折発生するライセンス承認エラーを修正。

備考

- DJI Terra v3.8以降のバージョンでは、公式サイトからの無料トライアルライセンスを使用して、LiDAR点群再構築で有料機能を実行する場合、インポートするファイルの最大容量は8 GB以下にしてください。
- DJI Terra v3.9以降のバージョンでは、ライセンスを取得するため、ユーザーはNVIDIAグラフィックカードを搭載したパソコンを使用する必要があります。
- DJI Terra v4.0.0以降のバージョンでは、6.1以上の計算能力のあるNVIDIAグラフィックカード（4GBメモリ）を使用することを推奨しています。
- DJI Terra v4.0.0以降のバージョンでは、DJI Terraが3日間オフラインになると、オンラインライセンスを使用できなくなります。

更新日: 2024- 01- 19

---

バージョン番号:

#### 4.0.0更新の詳細

新機能情報

- LiDAR点群の再構築ミッション向けの、等高線の生成機能に対応。
- LiDAR点群再構築ミッションのプロフィール機能向けの、測定とグリッド線に対応。
- LiDAR点群の再構築ミッション向けの、点群の有効距離範囲の調整に対応。
- 可視光再構築ミッションでの果樹園シナリオ向けに、ウェイポイントの追加・削除に対応。
- 可視光再構築ミッションでの果樹園シナリオ向けに、2D再構築の出力をDJI Agras管理プラットフォームにアップロードしたり、DJI Agras アプリにエクスポートしたりできるようになりました。
- 可視光再構築ミッションでの3D再構築向けに、DJI Modifyとの連携を有効にできるようになりました。

- 可視光再構築ミッションで、空中三角測量XML出力でのタイポイント（接合点）を生成するかどうかを選択できるようになりました。

#### 更新情報

- LiDAR点群再構築ミッション向けに、メモリの占有を最適化。64 GBの空きメモリにより、飛行15回で収集したデータを処理できます。元のファイルが約120 GBで、元の点群サイズが約60 GBの場合、点群再構築の効率は、v3.9.4と比較すると、約3倍に向上しています。
- LiDAR点群再構築ミッションで、ノイズ低減効果を最適化し、複雑なシナリオの再構築出力で時折発生する集合ノイズを減らします。

#### 修正情報

- v3.8.0で、点群モデルをスケールする際、時折発生するユーザーがプロフィール機能に入れない問題を修正。
- v3.9.4で、LiDAR再構築を実行する際、ログファイルが大きすぎる問題を修正。
- v3.9.0で、可視光再構築ミッションにてクラスター計算をするため、同一パソコン上で、複数の作業デバイスを有効にする際、再構築の効率が低下する問題を修正。

#### 備考

- DJI Terra v3.8以降のバージョンでは、公式サイトからの無料トライアルライセンスを使用して、LiDAR点群再構築で有料機能を実行する場合、インポートするファイルの最大容量は8 GB以下にしてください。
- DJI Terra v3.9以降のバージョンでは、ライセンスを取得するため、ユーザーはNVIDIAグラフィックカードを搭載したパソコンを使用する必要があります。
- DJI Terra v4.0.0以降のバージョンでは、6.1以上の計算能力のあるNVIDIAグラフィックカード（4GBメモリ）を使用することを推奨しています。
- DJI Terra v4.0.0以降のバージョンでは、DJI Terraが3日間オフラインになると、オンラインライセンスを使用できなくなります。

更新日：2024- 01- 18

---

#### バージョン：

##### 3.9.3更新の詳細

#### 修正情報

- LiDAR点群ミッションにおいて、再構築が時折失敗する問題を修正。
- 空中三角測量を修正する前にGCP管理ページを開くと、カメラのPOSデータが表示されない問

題を修正。

#### 備考

- 7パラメーター変換機能を使用し、v3.5.0以降のバージョンで新規対応した国の座標系を使用して生成された再構築結果は正しく表示されません。また、アノテーションと測定機能は、v3.4.4以前のバージョンでは利用できません。
- DJI Terra v3.8以降のバージョンでは、公式サイトからの無料トライアルライセンスを使用して、LiDAR点群再構築で有料機能を実行する場合、インポートするファイルの最大容量は8 GB以下にしてください。
- DJI Terra v3.9以降のバージョンでは、ライセンスを取得するには、NVIDIAグラフィックカードを使用したパソコン機器を使用する必要があります。
- LiDAR点群ミッションのPPK計算機能は、デバイスがネットワーク接続時にのみ利用できます。データ収集後、3ヶ月以内にPPK計算を実行してください。

更新日： 2023- 11- 02

---

#### バージョン：

#### 3.9.4更新の詳s

#### 更新情報

- LiDAR点群ミッション向けのスムーズ点群機能は、デフォルトでは無効になっています。

#### 備考

- 7パラメーター変換機能を使用し、v3.5.0以降のバージョンで新規対応した国の座標系を使用して生成された再構築結果は正しく表示されません。また、アノテーションと測定機能は、v3.4.4以前のバージョンでは利用できません。
- DJI Terra v3.8以降のバージョンでは、公式サイトからの無料トライアルライセンスを使用して、LiDAR点群再構築で有料機能を実行する場合、インポートするファイルの最大容量は8 GB以下にしてください。
- DJI Terra v3.9以降のバージョンでは、ライセンスを取得するには、NVIDIAグラフィックカードを使用したパソコン機器を使用する必要があります。
- LiDAR点群ミッションのPPK計算機能は、デバイスがネットワーク接続時にのみ利用できます。データ収集後、3ヶ月以内にPPK計算を実行してください。
- ユーザーがオブジェクト表面のわずかな高さの変化 (< 5 cm) の特性を保存する必要がある場合、LiDAR点群ミッションでスムーズ点群機能を有効にしないでください。

更新日：2023- 11- 16

---

バージョン：3.9.3

更新の詳細

修正情報

- LiDAR点群ミッションにおいて、再構築が時折失敗する問題を修正。
- 空中三角測量を修正する前にGCP管理ページを開くと、カメラのPOSデータが表示されない問題を修正。

備考

- 7パラメーター変換機能を使用し、v3.5.0以降のバージョンで新規対応した国の座標系を使用して生成された再構築結果は正しく表示されません。また、アノテーションと測定機能は、v3.4.4以前のバージョンでは利用できません。
- DJI Terra v3.8以降のバージョンでは、公式サイトからの無料トライアルライセンスを使用して、LiDAR点群再構築で有料機能を実行する場合、インポートするファイルの最大容量は8 GB以下にしてください。
- DJI Terra v3.9以降のバージョンでは、ライセンスを取得するには、NVIDIAグラフィックカードを使用したパソコン機器を使用する必要があります。
- LiDAR点群ミッションのPPK計算機能は、デバイスがネットワーク接続時にのみ利用できます。データ収集後、3ヶ月以内にPPK計算を実行してください。

更新日：2023- 11- 02

---

バージョン：

3.9.2更新の詳細

新機能情報

- LiDAR点群再構築ミッション用の出力プロファイルの表示に対応。
- 農業用アプリの果樹園モードで生成された3D飛行ルートのウェイポイント高度を調整できるようになりました。

修正情報

- DJI Terra v3.9.0.での LIDAR 点群ミッション向けに、元データでLDR~1ファイルを読み込めないことにより、結果ファイルが紛失する問題を修正しました。

#### 備考

- 7パラメーター変換機能を使用し、v3.5.0以降のバージョンで新規対応した国の座標系を使用して生成された再構築結果は正しく表示されません。また、アノテーションと測定機能は、v3.4.4以前のバージョンでは利用できません。
- DJI Terra v3.8以降のバージョンでは、公式サイトからの無料トライアルライセンスを使用して、LiDAR点群再構築で有料機能を実行する場合、インポートするファイルの最大容量は8 GB以下にしてください。
- DJI Terra v3.9以降のバージョンでは、ライセンスを取得するには、NVIDIAグラフィックカードを使用したパソコン機器を使用する必要があります。
- LiDAR点群ミッションのPPK計算機能は、デバイスがネットワーク接続時にのみ利用できます。データ収集後、3ヶ月以内にPPK計算を実行してください。

更新日： 2023- 10- 24

---

#### バージョン：

##### 3.9.0更新の詳細

##### 新機能情報

- Zenmuse L2が収集したデータの処理に対応。
- PPK計算機能の有効化に対応。（中国本土内でZenmuse L2を使用して収集したデータにのみ対応）
- Zenmuse L2のキャリブレーションに対応。Zenmuse L1キャリブレーションのオプションが、LiDARキャリブレーションに更新。LiDARキャリブレーションは、Zenmuse L1とL2の両方のデータを計算できます。
- LiDAR点群再構築ミッション向けの高度基準点のインポートに対応。精度チェックの名称は精度コントロール/チェックに更新されました。
- 可視光再構築ミッション用のタイポイント（接合点）とPOSデータ付きの画像を含むXMLファイルのエクスポートに対応。XMLファイルは、2D/3D再構築用のサードパーティ製ソフトウェアにインポートできます。
- LiDAR点群処理用のDJI Terraクオリティレポートの新バージョンがリリースされ、飛行パラメ

ーター、IMU軌道エラー、検証点RMSEなどのパラメーターの出力に対応。

#### 更新情報

- スムーズ点群機能を最適化。この機能を有効にすると、点群密度がv3.8バージョンでの点群密度の約3分の1にまで低減されます。

#### 修正情報

- 以下の問題を修正：カメラパラメーターがユーザーによって設定されていないため、一つのフォルダ内に複数のカメラからの画像データや異なる解像度の画像データがある時に、再構築効果の品質が悪い、またはエラーメッセージ (1005)が表示される。
- DJI Terra v3.8でLiDAR点群再構築ミッション用の出力がない時に、アノテーションと測量機能が利用できない問題を修正。

#### 備考

- 7パラメーター変換機能を使用し、v3.5.0以降のバージョンで新規対応した国の座標系を使用して生成された再構築結果は正しく表示されません。また、アノテーションと測定機能は、v3.4.4以前のバージョンでは利用できません。
- DJI Terra v3.8以降のバージョンでは、公式サイトからの無料トライアルライセンスを使用して、LiDAR点群再構築で有料機能を実行する場合、インポートするファイルの最大容量は8 GB以下にしてください。
- DJI Terra v3.9以降のバージョンでは、ライセンスを取得するには、NVIDIAグラフィックカードを使用したパソコン機器を使用する必要があります。
- LiDAR点群ミッションのPPK計算機能は、デバイスがネットワーク接続時にのみ利用できます。データ収集後、3ヶ月以内にPPK計算を実行してください。
- LiDAR点群ミッション用に高度基準点をインポートする時、出力座標系と垂直座標系はデフォルトに設定されている必要があります。
- 可視光再構築ミッションで、空中三角測量のタイポイントをエクスポート（エクスポートするXMLファイルは空中三角測量の全情報を含みます）する時、データはローカル座標系（Local EN U等）または投影座標系（WGS84 UTM zone 49N等）にエクスポートできます。

更新日：2023- 10- 10

---

バージョン番号：3.8.0

更新の詳細

## 新機能情報

- LiDAR点群再構築向けに数値標高モデル (DEM)の生成に対応。
- クラスタ再構築用にワークフローを更新します。同一パソコン上で複数の作業機器を有効にできます。自動で作業機器を追加したり削除したりできます。作業機器の詳細情報が表示されます。
- クラスタ出力ファイル ディレクトリは、ネットワークドライブDOSディレクトリに設定できます。（ファイルは共有する必要があり、作業機器によりアクセスできます。）例：Z:\DJI\Terra.
- LiDAR点群用のクオリティレポートのレイアウトを更新。
- ヘルプセンターを追加し、ユーザーをDJI Terraのウェブページにリダイレクトして、製品マニュアルをダウンロードできるようにします。

## 更新情報

- 点群精度最適化機能の精度を最適化しました。
- 制限区域はデフォルトで無効になっています。
- DJI Matrice 300 RTK使用時に、詳細点検ミッション用にジンバルのチルト角を30°以上で設定できるようになりました。

## 修正情報

- エクスポートしたクオリティレポートのPDFファイルのレイアウト表示のエラーを修正しました。
- GCP管理ページ上で最適化をクリックした際、起きる画面ラグ問題を修正しました。
- GCP管理ページもしくはROIページに入った際、時折起きるネットワーク接続エラー問題を修正しました。

## 備考

- 7パラメーター変換機能を使用し、v3.5.0以降のバージョンで新規対応した国の座標系を使用して生成された再構築結果は正しく表示されません。また、アノテーションや測定機能は、v3.4.4以前のバージョンでは利用できません。
- DJI Terra v3.7.0 以降のバージョンでは、GPU Compute Capability 5.0 以上の NVIDIA グラフィックスカードを使用することをお勧めします。
- DJI Terra v3.8以降のバージョンでは、公式サイトからの無料トライアルライセンスを使用して、LiDAR点群再構築で有料機能を実行する場合、インポートするファイルの最大容量は8 GB以下にしてください。

---

バージョン番号:

### 3.7.6更新の詳細

#### 修正内容

- Windows OS上で、一部の言語において、マルチスペクトル再構築の出力結果に異常が生じる問題を修正。

#### 注意事項

- 7パラメーター変換機能を使用し、v3.5.0以降のバージョンで新規対応した国の座標系を使用して生成された再構築結果は正しく表示されません。また、アノテーションや測定機能は、v3.4.4以前のバージョンでは利用できません。
- DJI Terraの再構成アルゴリズムはv3.4で更新されました。Terraのバージョンがv3.4より前の場合は、コンピューターのNVIDIAグラフィックカードのドライバーを452.39以降にアップグレードして、再構築機能が正しく動作するようにしてください。手順については、「DJI Terra NVIDIA Graphics Card Driver Review and Upgrade Guide」を参照してください。
- v3.7.6ソフトウェアのインストール時にファイルの破損がプロンプト表示されるか応答がない場合は、ダウンロードしたインストールパッケージを右クリックし、[プロパティ] を選択します。[全般] タブで、ウィンドウの下部に「This file came from another computer and might be blocked to help protect this computer (このファイルは別のコンピューターからのものであり、このコンピューターを保護するためにブロックされている可能性があります)」というメッセージが表示されます。[ブロック解除] を選択して、[適用] > [OK] をクリックします。
- DJI Terra v3.7.0以降のバージョンでは、GPU演算能力5.0以上のNVIDIAグラフィックカードを使用することが推奨されます。

更新日: 2023- 07- 06

---

バージョン番号:

### 3.7.3更新の詳細

#### 修正内容

- DJI Terra v3.7.0で再構築の進行状況が100%に達すると、Windows 7オペレーティングシステムがフリーズする可能性がある問題を修正しました。
- DJI Terra v3.7.0でDJI Phantom 4 Multispectralを使用した再構築時に、青色光の結果が欠落する問題を修正しました。
- DJI Terra v3.7.0で品質レポートの再構築精度フィールドの一部が表示されない問題を修正しました。
- 点群の再構築で水面の調整が有効になっている状態で、ユーザーが解像度を低または中に設定する場合に、再構築が失敗する問題を修正しました。
- DJI Terra v3.7.0で現在有効なライセンスの対象となっている機能が、有効期限が切れたライセンスの対象であった場合、現在有効なライセンスが利用できなくなる問題を修正しました。

#### 注意事項

- 7パラメーター変換機能を使用し、v3.5.0以降のバージョンで新規対応した国の座標系を使用して生成された再構築結果は正しく表示されません。また、アノテーションや測定機能は、v3.4.4以前のバージョンでは利用できません。
- DJI Terraの再構成アルゴリズムはv3.4で更新されました。Terraのバージョンがv3.4より前の場合は、コンピューターのNVIDIAグラフィックカードのドライバーを452.39以降にアップグレードして、再構築機能が正しく動作するようにしてください。手順については、「DJI Terra NVIDIA Graphics Card Driver Review and Upgrade Guide」を参照してください。
- v3.7.3ソフトウェアのインストール時にファイルの破損がプロンプト表示されるか応答がない場合は、ダウンロードしたインストールパッケージを右クリックし、[プロパティ] を選択します。[全般] タブで、ウィンドウの下部に「This file came from another computer and might be blocked to help protect this computer (このファイルは別のコンピューターからのものであり、このコンピューターを保護するためにブロックされている可能性があります)」というメッセージが表示されます。[ブロック解除] を選択して、[適用] > [OK] をクリックします。
- DJI Terra v3.7.0以降のバージョンでは、GPU演算能力5.0以上のNVIDIAグラフィックスカードを使用することが推奨されます。

更新日：2023- 06- 15

---

バージョン番号:

### 3.7.0更新の詳細

#### 新機能

- DJI Terra品質レポートの新しいバージョンが航空三角測量、2Dモデル構築、3Dモデル構築についてリリースされ、投影数、GCP再投影誤差RMS、前方交差誤差 (m) といったパラメーターの出力をサポート。品質レポートはそのままPDF形式にエクスポートできます。
- 3Dモデル構築でモデルのスライシングをした際にブロック境界が合わないという問題を解決するためのブロックの自動位置合わせ 機能を追加。
- GCP管理にマーク自動識別機能を追加。DJI Terraでは、他の写真のマークも最初のユーザーが手動で追加したマークに基づいて自動識別し、再投影誤差のある写真に警告アイコンを付けます。
- LiDAR点群再構築ミッションでのLASとPNTSの出力でグラウンドポイントタイプの閲覧と設定をサポート。
- 高解像度のモデルをデフォルトで50%に縮小するモデル縮小機能をサポート。この機能は中解像度や低解像度のモデルには適用されません。この機能を有効化すると、モデルの三角形が設定どおりの比率まで縮小されます。再構築出力を縮小するのは、オンラインでのモデルの閲覧やモデルの編集などのダウンストリーム操作をしやすくするためです。
- Reportフォルダーにあるプロジェクトファイル下でのカメラPOS残差の生成をサポート。このファイルのデフォルトの名前は「POS\_residual\_of\_camera.csv」です。
- 韓国の高さシステムKNGeoid18をサポート。
- イタリア語のサポート。

#### 更新内容

- ビッグデータ再構築、ワーカー機器管理、再構築キュー調整といったシナリオでクラスタ再構築の安定性を最適化し応答速度を向上。
- 可視光再構築でのアーバンマッピングのシナリオを更新。
- NVIDIAグラフィックスカードGeForce RTX 40シリーズのサポートを最適化。
- キャリブレーション済み画像の割合を高めるよう航空三角測量アルゴリズムを最適化。

#### 修正内容

- クラスタ再構築でワーカー機器の接続切断が発生しミッションの進行が停止することのある問題を修正。
- クラスタ再構築でワーカー機器の状態をリセットすると適用ができなくなることのある問題を

修正。

- 同じコントロール機器の下にあるワーカー機器の数が2つの検索の間で一貫していないことのある問題を修正。
- ワーカー機器の状態の表示が複数の異なったコントロール機器の間で一貫していない問題を修正。
- マルチスペクトル再構築出力ビューのGSDとスケールが品質レポートのそれと一致する問題を修正。
- 注釈と測定をマップ上の制限区域で実行しているときUIの表示異常の問題を修正。
- 詳細検査ミッションでDJI Mavic 3 Enterpriseシリーズの飛行速度が15 m/sに設定できない問題を修正。

#### 注意事項

- 7パラメーター変換機能を使用し、v3.5.0以降のバージョンで新規対応した国の座標系を使用して生成された再構築結果は正しく表示されません。また、アノテーションや測定機能は、v3.4.4以前のバージョンでは利用できません。
- DJI Terraの再構成アルゴリズムはv3.4で更新されました。Terraのバージョンがv3.4より前の場合は、コンピューターのNVIDIAグラフィックカードのドライバーを452.39以降にアップグレードして、再構築機能が正しく動作するようにしてください。手順については、「DJI Terra NVIDIA Graphics Card Driver Review and Upgrade Guide」を参照してください。
- v3.7.0ソフトウェアのインストール時にファイルの破損がプロンプト表示されるか応答がない場合は、ダウンロードしたインストールパッケージを右クリックし、[プロパティ] を選択します。[全般] タブで、ウィンドウの下部に「This file came from another computer and might be blocked to help protect this computer (このファイルは別のコンピューターからのものであり、このコンピューターを保護するためにブロックされている可能性があります)」というメッセージが表示されます。[ブロック解除] を選択して、[適用] > [OK] をクリックします。
- 公式ウェブサイトから適用される無料試用版は、DJI Terra v3.7.0以降のバージョンではオフラインで使用できません。最新バージョンのソフトウェアを使用している場合のみ可能です。
- DJI Terra v3.7.0以降のバージョンでは、GPU演算能力5.0以上のNVIDIAグラフィックカードを使用することが推奨されます。
- モデル縮小機能を有効化すると、DJI Terra will preserve モデルの精度を最大限に維持しますが、特定の詳細の精細さが失われることには変わりありません。詳細をより高度に復元することが要求される近接写真測量ミッションでは、モデル縮小機能を無効化するかパラメーター値を8

0%より高く設定することが推奨されます。パラメーター値が20%より低いと、一部の平らなエリアでテクスチャがタイルに正しく追加されないということが一定の確率で起こります。

- LiDAR点群ミッションでは、グラウンドポイントタイプ、点群の平滑化の有効化、または点群精度の最適化により、再構築時間が長くなります。
- DJI Terra v3.7以降のバージョンでは、LiDAR点群再構築での点群の平滑化機能がデフォルトで有効化されています。
- 可視光再構築でマーク自動識別を使用するには、事前に航空三角測量の計算を完了しておく必要があります。

更新日：2023- 05- 25

---

## バージョン番

号:3.6.8更新の詳細

### 修正内容

- 3.6.7において、特定のウィルス対策ソフトウェアによって“nvinfer.dll”ファイルが誤って削除されたため、再構築に失敗する問題を修正。

### 【注】

- 7パラメーター変換機能を使用し、v3.5.0以降のバージョンで新規対応した国の座標系を使用して生成された再構築結果は正しく表示されません。また、アノテーションや測定機能は、v3.4.4以前のバージョンでは利用できません。
- DJI Terraの再構成アルゴリズムはv3.4で更新されました。Terraのバージョンがv3.4より前の場合は、コンピューターのNVIDIAグラフィックカードのドライバーを452.39以降にアップグレードして、再構築機能が正しく動作するようにしてください。手順については、「DJI Terra NVIDIA Graphics Card Driver Review and Upgrade Guide」を参照してください。
- v3.6.8ソフトウェアのインストール時にファイルの破損がプロンプト表示されるか応答がない場合は、ダウンロードしたインストールパッケージを右クリックし、[プロパティ] を選択します。[全般] タブで、ウィンドウの下部に「This file came from another computer and might be blocked to help protect this computer (このファイルは別のコンピューターからのものであり、このコンピューターを保護するためにブロックされている可能性があります)」というメッセージが表示されます。[ブロック解除] を選択して、[適用] > [OK] をクリックします。

- v3.6.0以降のバージョンでは、航空三角測量計算をしてからXMLファイルを生成する際、歪みを修正した画像は航空三角測量の出力ディレクトリへコピーされません (XXXX\AT\ undistort)。

更新日：2023-03-31

---

## バージョン番

号:3.6.7更新の詳細

### 修正内容

- マップのソースが天地図 (Tianditu) に設定されている時、マップをロードできない問題を修正
- 【注】
- 7パラメーター変換機能を使用し、v3.5.0以降のバージョンで新規対応した国の座標系を使用して生成された再構築結果は正しく表示されません。また、アノテーションや測定機能は、v3.4.4以前のバージョンでは利用できません。
  - DJI Terraの再構成アルゴリズムはv3.4で更新されました。Terraのバージョンがv3.4より前の場合は、コンピューターのNVIDIAグラフィックカードのドライバーを452.39以降にアップグレードして、再構築機能が正しく動作するようにしてください。手順については、「DJI Terra NVIDIA Graphics Card Driver Review and Upgrade Guide」を参照してください。
  - v3.6.7ソフトウェアのインストール時にファイルの破損がプロンプト表示されるか応答がない場合は、ダウンロードしたインストールパッケージを右クリックし、[プロパティ] を選択します。[全般] タブで、ウィンドウの下部に「This file came from another computer and might be blocked to help protect this computer (このファイルは別のコンピューターからのものであり、このコンピューターを保護するためにブロックされている可能性があります)」というメッセージが表示されます。[ブロック解除] を選択して、[適用] > [OK] をクリックします。
  - v3.6.0以降のバージョンでは、航空三角測量計算をしてからXMLファイルを生成する際、歪みを修正した画像は航空三角測量の出力ディレクトリへコピーされません (XXXX\AT\ undistort)。

更新日：2023-03-01

---

## バージョン番

号:3.6.6更新の詳細

### 最新情報

- 農業用途における樹冠の結果のクリアに対応しました。

### 更新内容

- カメラ情報でのファイルフォルダーの選択ロジックを最適化しました。
- マルチスペクトル再構成出力で単一バンドの遷移の滑らかさを最適化しました。
- 圃場以外のセマンティック領域での処方マップ生成に対応するようにルールを最適化しました。
- 農業用途における旋回点での飛行ルートの特長を最適化しました。
- 2D、3D、およびLiDAR点群再構成の安定性を最適化しました。

### 修正内容

- 2Dおよび3D再構成での不正確なメモリ推定により発生する再構成エラーを修正しました。
- 果樹または樹冠モードでくぼんだ圃場を計画すると、飛行ルートが圃場境界を越える問題を修正しました。
- 2D再構成で光の均一性を有効にし、3D再構成を行うと、「再構成エラー(1005)」または「再構成エラー (6001)」が表示される問題を修正しました。
- 精度チェックでインポートしたチェックポイントが5つ未満の場合、データ列の定義時に一部のデータが表示されない問題を修正しました。
- v3.4.4で「今後表示しない」を選択していても、ライセンスの更新を促す通知ウィンドウが表示され続ける問題を修正しました。
- 点群精度の最適化が有効になっている場合、LiDAR点群再構成ミッションで再構成出力をクリアするときに、チェックポイント機能が使用できない問題を修正しました。
- LiDAR点群再構成ミッションで複数の基地局からのデータを使用するときに、デフォルトの座標系が正しく設定されない問題を修正しました。
- マップソースがGoogle Mapsに設定されていると、マップ検索機能が異常になる問題を修正しました。

### 【注】

- Terra v3.5.0、v3.6.0とv3.6.6で、7パラメーター変換機能や新たにサポート対象となった国の座標系を使用して生成した再構成結果は、v3.4.4以前のバージョンでは正しく表示されず、注釈や測定機能を使用できません。
- DJI Terraの再構成アルゴリズムはv3.4で更新されました。Terraのバージョンがv3.4より前の場合は、コンピューターのNVIDIAグラフィックカードのドライバーを452.39以降にアップグ

ロードして、再構築機能が正しく動作するようにしてください。手順については、「DJI Terra NVIDIA Graphics Card Driver Review and Upgrade Guide」を参照してください。

- v3.6.6ソフトウェアのインストール時にファイルの破損がプロンプト表示されるか応答がない場合は、ダウンロードしたインストールパッケージを右クリックし、[プロパティ] を選択します。[全般] タブで、ウィンドウの下部に「This file came from another computer and might be blocked to help protect this computer (このファイルは別のコンピューターからのものであり、このコンピューターを保護するためにブロックされている可能性があります)」というメッセージが表示されます。[ブロック解除] を選択して、[適用] > [OK] をクリックします。
- v3.6.0以降のバージョンでは、航空三角測量計算をしてからXMLファイルを生成する際、歪みを修正した画像は航空三角測量の出力ディレクトリへコピーされません。(XXXX\AT\ undistort)

更新日：2023-01-05

---

バージョン：3.6.0

更新の詳細

新機能

- 可視光再構成でカメラの内部パラメーターの入力をサポートし、サードパーティ製カメラに適応。
- カメラの内部パラメーターの事前設定や修正をサポートし、カメラの内部パラメーターが不正確なため再構成出力が劣悪になる問題を修正。
- 点群平滑化機能をサポートし、点群が密すぎる場合に点群抽出の効果を改善。
- LiDAR点群ミッションで精度チェックをサポート。ユーザーがチェックポイントファイルをインポートすると、品質レポートが自動生成され、点群出力の精度をチェックできます。
- LiDAR点群ミッションで点群密度をサンプリングするための物理的距離の利用をサポート。
- スタンドアロン再構成で「地面/被写体までの距離」の設定をサポート。
- 垂直座標系NAVD88 (ft) またはNAVD88 (ftUS) のジオイドファイルの選択をサポート。

更新内容

- v3.5.5バージョンと比較して、2D再構築でのスタンドアロンの計算効率を10%向上。
- 水面の再構成効果を最適化したことにより、識別ができなかったり不正確になったりするのを低減し、水の反射の識別を改善 (たとえば、古いソフトウェアバージョンを使用すると、再構成出力に空洞ができてしまう場合があります)。
- 設定「光の均一性/ヘイズの低減」を「光の均一性」と「ヘイズの低減」に分割。

- 垂直データム設定でジオイドファイルを選択する際にEPSGホバリングメッセージの表示の問題を最適化。
- 2Dタイルのサイズを元のサイズの3分の1に圧縮することで最適化。
- 光の差が大きいデータソースを使用する場合の2D再構成出力で色の一貫性を最適化。
- Windows 11 (64ビット) オペレーティングシステムのユーザーエクスペリエンスを最適化。
- リアルタイム再構成の安定性と、再構築の精度と色の一貫性を最適化。
- 特定の出力座標系でのLiDAR点群ミッションで再構築速度を最適化。
- クラスタ再構築でファイルディレクトリを最適化。v3.6.0以降のバージョンでは、クラスタ計算に使用されるファイルはローカルに保存できないので、全てのワーカー機器からアクセスできる共有ディレクトリに保存する必要があります (ネットワークパスを使用することが推奨されます。例: [\\192.168.0.2\terra](#))。このようにして、Terraでは再構成ファイルを共有ディレクトリにコピーしたり、歪みを修正した画像と再構成出力をコンピューターへコピーしたりする必要がなくなるので、クラスタ再構成時にファイルをコピーするのにかかる時間を節約できます。

#### 修正内容

- 可視光やマルチスペクトルの写真の名前が長すぎる場合の表示の問題を修正。
- 測定ポイントを3Dモデルでマーキングすると自動的に別の場所へ移動する問題を修正。
- Terraを開いて長時間閉じていないと新しいミッションを作成する際に写真データをDJI Terraへインポートできなくなる問題を修正。

#### 【注】

- Terra v3.5.0とv3.6.0で、7パラメーター変換機能や新たにサポート対象となった国の座標系を使用して生成した再構成結果は、v3.4.4以前のバージョンでは正しく表示されず、注釈や測定機能を使用できません。
- DJI Terraの再構成アルゴリズムはv3.4で更新されました。Terraのバージョンがv3.4より前の場合は、コンピューターのNVIDIAグラフィックカードのドライバーを452.39以降にアップグレードして、再構築機能が正しく動作するようにしてください。手順については、「DJI Terra NVIDIA Graphics Card Driver Review and Upgrade Guide」を参照してください。
- v3.6.0ソフトウェアのインストール時にファイルの破損がプロンプト表示されるか応答がない場合は、ダウンロードしたインストールパッケージを右クリックし、[プロパティ] を選択します。[全般] タブで、ウィンドウの下部に「This file came from another computer and might be blocked to help protect this computer (このファイルは別のコンピューターか

らのものであり、このコンピューターを保護するためにブロックされている可能性があります)』というメッセージが表示されます。[ブロック解除] を選択して、[適用] > [OK] をクリックします。

- DJI Terraで飛行ルートのプランニングをしてから、ユーザーがKMZファイルをDJI Pilotへエクスポートできるのは、DJI Matrice 30シリーズまたはMavic 3 Enterpriseシリーズの機体を使用して詳細検査ミッションを実行する場合のみです。
- v3.6.0以降のバージョンでは、航空三角測量計算をしてからXMLファイルを生成する際、歪みを修正した画像は航空三角測量の出力ディレクトリへコピーされません。 V3.6.0 (XXXX\AT\ und istort) [サポート対象の機体 - 飛行ルートプランニング]
- Matrice 30シリーズ (詳細検査ミッションでのみ使用)
- DJI Mavic 3 Enterpriseシリーズ (詳細検査ミッションでのみ使用)

更新日: 2022-11-10

---

<https://www.dji.com/dji-terra>